

# 令和5年度 中学部 教育計画

心と身体が変化する青年期を考慮しながら、小学部での積み重ねを大切に、生徒の発達に応じて資質・能力の伸張を図るために以下の目標をおく。

## 1 教育目標

### (1) 準ずる教育課程

- ・健康・安全に関し自己管理できる習慣を育てる。
- ・自然や文化に親しみ、豊かな情操を養う。
- ・学力の基礎・基本を定着させ、自ら学ぼうとする力と生活の中で活用する力を身に付ける。
- ・集団活動を通してコミュニケーション力を培い、社会参加していく力を育てる。

### (2) 知的障害を併せ有する生徒の教育課程

- ・健康・安全に関し、生活リズムや生活習慣を整える。
- ・自然や文化に親しみ、豊かな情操を養う。
- ・見通しがもてる繰り返しの活動を行うことから、学習の基礎的な力や態度を身につけ、人や物事に意欲的に関わろうとする力を育てる。
- ・集団参加の意識を向上させ、それぞれの生徒に合ったコミュニケーション力を伸ばす。

### (3) 自立活動を主とする教育課程

- ・健康・安全に関し、生活リズムや生活習慣を整える。
- ・自然や文化に親しみ、豊かな情操を養う。
- ・見通しがもてる繰り返しの活動を行うことから、興味・関心を高め、人や物事に関わろうとする力を育てる。
- ・周囲の働きかけを受け止め、それぞれの生徒にあった方法で自分を表現する力を育てる。

## 2 基本方針

- (1) 心身共に成長期にある生徒に対し、健康・安全・生命の尊さを基調に、豊かで意欲的な中学部の生活が送れるよう配慮する。
- (2) 小学部での生活経験をふまえ、実態に即した指導を目指しつつ、情緒の安定を基盤に、身辺生活・基本的生活習慣の形成、集団への積極的な参加能力など一層の充実を図る。
- (3) 一人一人に必要な自立活動を系統的、継続的に行う。
- (4) 指導内容の精選、重点化を図り、知的学習への意欲・社会的関心・道徳的判断力を高める。このため、指導形態や教材教具に創意工夫をこらす。

## 3 学習指導（学習形態）

### (1) 学級での指導

- ・発達の課題に応じてきめ細かい指導を行う。
- ・朝の会、帰りの会を行う。

### (2) 学年での指導

- ・学級活動は、生活年齢を基本とした学年集団で取り組み、相互の理解や協力、思いやりの心を育てる。ホームルーム活動や給食指導（摂食指導）及び一部の行事などの時間の指導にあたる。

### (3) グループでの指導

- ・生徒の課題に合わせて、学習するグループを編成している。複数の学年の生徒と一緒に学習することから、コミュニケーションを大切にして指導する。

### (4) 学習グループ編成

- ・各教科や自立活動では、個々の能力や興味・関心、発達課題に十分応えられるように、学部全体を縦割りにして課題別の学習グループを編成する。学習課題に応じた学習や集団活動を、効果的に進める。
- ・学習グループの編成は一人一人の教育的ニーズや集団の大きさ等を鑑み、7つのグループを編成する。

## 4 特色ある学習

### (1) 交流教育

- ・練馬区立小中一貫教育校大泉桜学園との交流及び共同学習では、学習グループ単位で活動を計画し、同世代の生徒との活動を積極的に楽しむなかで相互理解を深め、共同学習を行う。
- (2) 進路に関する学習
- ・日常における進路の学習  
キャリア教育の視点でグループ学習、学級活動、特別活動などの場面を通じ、卒業後の豊かな生活を実現するため、自立する態度や姿勢やコミュニケーション能力を育てる。
  - ・施設見学  
進路指導の一環として、施設を見学することにより、具体的に自らの進路を考える機会とすることをねらいとして実施する。各グループの実態に合わせて見学場所を考え、グループ別に見学を行う。また、保護者の参加を積極的に図り、共に進路を考える大切な機会とする。
  - ・進路実習  
中学部3年の準ずる教育課程の生徒を対象に、年1回行う。
- (3) 学部行事
- ・年間3回程度、学部集会をもち、新入生歓迎会、卒業生を送る会などの内容で集会等を行う。また年1回の音楽集会を学部単位で行う。各学年・教科等で担当し、企画・進行する。
- (4) 部活動
- ・前期は東京都障害者スポーツ大会およびパラスポーツ交流大会（ボッチャ部門）、後期はハンドサッカー大会に向けての練習と大会本番を部活動に位置づけて取り組む。
- (5) 自立活動
- ・自立活動室での特設の時間を週2時間もち、自立活動部の教員やPT、OT、STなど専門家の助言を得て取り組む。